

## 令和6年度 第50回沖縄県畜産共進会

### 第1部 肉用牛 講評

肉用牛につきましては36頭の出品がありました。

全体の印象としては発育の良い牛が多く、例年に比べ体の伸び・深みがある印象でした。

審査においては、全体的に発育と体積に富んだ母牛が多く、資質についても改良の成果を感じるものでありました。今後は資質・品位などの種牛性の改良に努めて頂きますようお願いいたします。

#### ○若雌1類

(総評)

全体的に発育が良好で、体の伸び、体積について概ね良好な牛が多く、特に体の長さ、幅に優れた牛が多い印象でした。ただ、やや尻の形状、後躯の弱さを感じさせる牛も見られたことから、今後の改善に期待します。

(個別)

優秀1席は発育良く、前躯・中躯・後躯の充実、肋の張り出し、均称に優れ、被毛の密度、骨あじ良く若雌らしい品位のある素晴らしい牛でした。2席の牛も発育や品位に優れ、肩付き良く前幅も充実していましたが、体積面で優秀1席におよびませんでした。3席の牛は体積や肋の張り、前躯・中躯・後躯の移行に優れていましたが、やや体上線がゆるく、骨の粗さも感じられ、上位牛とくらべやや品位に物足りなさがありました。4席の牛は発育良く体上線も平直で、肋の張りも充実していましたが、やや尻の形状が惜しまれる点でした。

#### ○若雌2類

(総評)

全体的に発育良好で、体積があり、特に中躯の長さや前躯・中躯の幅に優れていました。ただ、後肢の弱い牛が見られたことから、今後の改善に期待します。

(個評)

優秀1席は均称良く体積があり、体上線の強さや体下線の平直さ、尻の形状や腿の充実性に優れていました。2席は発育、体積、肋はり良く、顔の品位、骨あじに優れていましたが、優秀1席にくらべ、側貌から見た均称や肘後の充実にやや物足りなさがありました。3席は前躯・中躯・後躯の幅や腿の充実性に優れていましたが、上位牛とくらべ、後肢の弱さが惜しまれました。4席は発育や体積、前躯の幅、胸の充実はすばらしいものがありました。尻の形状にやや難がある点が惜しまれました。

## ○高等登録群

### (総評)

高等登録群の評価については、母と娘の2頭で1群として出品し、高等登録の普及促進と優良雌牛系統の拡大を狙いとした出品区です。審査は個体毎のレベルに加え、群としての相似性、母から娘に亘る改良の成果という点を評価し実施しました。

今回、高等登録群として8セット16頭が出品されました。全体的な印象は発育良好で体積に富み、中軀が広く体上線強く、腹容豊で充実し乳徴の良いものが多く出品され群としてのレベルの高さが伺えました。しかし、やや尻の形状、後肢の強さに惜まれるものが散見されたので、改良していくことの難しさを改めて感じました。今後も継続して各和牛改良組合に対し優良雌牛系統の保留促進に取り組んでいただけることを期待したいです。

### (個評)

今回、優秀1席にした親子群は、発育・体積に富み、とくに中軀の腹容豊で幅、張り、深さよく、体上線も強く充実していました。また種牛性の品位に優れ輪郭鮮明が共通美点としてあげられ、種牛性の高い群として、とくに目立っており、母から娘へ改良された点として体積の充実や種牛性も確認できました。

2席について、発育・体積に富み、側望からの相似性が高く、体伸、肋張りがよいものがありました。しかし、母娘とも1席に比べ品位に差があり次席となりましたが、相似性の高い群でありました。

3席は、体積・伸びよく資質が優れ、側望の相似性も高いものはありましたがやや上位との差は体積が惜しまれました。

4席は、母と娘とも体積に富んでいるものの、品位の差が大きく上位牛に比べ劣っていました。

### 第3部 肉牛の部 講評

枝肉の審査は、（社）日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格を基準とした冷屠体の審査で行っております。

今回の出品頭数は去勢 25 頭でありました。BMSNo.では、今回の平均が 9.3 で、前回の 10.4 から 1.1 ポイント減少しましたが、バラの厚さが 0.1 c m、歩留まり基準値は 0.2 ポイント向上した結果となりました。

今回の課題としましては、枝肉重量 503.3 kg と、前回の 525 kg を 21.7 kg 下回る結果となったため、次年度の改善を期待したいと思います。

続いて格付けは	A-5	19 頭	76%
	A-4	6 頭	24%

となっており、肉質等級 4 以上のいわゆる上物率は前回に引き続き 100% となりました。

これも、日頃から農家の皆様が肥育技術の向上を目指して努力して頂いた結果だと思えます。農家の皆さんには、これからも引き続き目の行き届いた飼養管理をお願いしたいと思います。

以上、審査講評とさせていただきます。

令和 6 年度第 5 0 回沖縄県畜産共進会  
審査委員長 真 喜 志 修